

財務会計 - 入門 I

確認テスト 解答

〔解答時間：60分〕

T A C 商事株式会社の当期（自×5年4月1日 至×6年3月31日）に関する下記の〔資料〕を参照して、以下の各問に答えなさい。

- 問 1** 決算整理前残高試算表を作成しなさい。
- 問 2** 損益計算書及び貸借対照表を作成しなさい。

〔資料 I〕 前期末繰越試算表

繰 越 試 算 表				(単位：千円)	
× 5 年 3 月 3 1 日					
現	金	103,700	支 払 手 形		57,000
当 座 預	金	422,000	買 掛 金		69,500
受 取 手	形	35,000	未 払 利 息		600
売 掛	金	107,000	貸 倒 引 当 金		1,900
繰 越 商	品	24,000	借 入 金		60,000
建 物		380,000	建 物 減 価 償 却 累 計 額		205,200
備 品		40,000	備 品 減 価 償 却 累 計 額		22,500
土 地		150,000	資 本 金		800,000
			繰 越 利 益 剰 余 金		45,000
1,261,700					1,261,700

〔資料 II〕 当期における期中取引の要約

1. 商品売買
 - (1) 総仕入高は 316,000千円であり、取引は掛によっている。
 - (2) 仕入戻しを 950千円行い、掛代金が減額された。
 - (3) 総売上高は 435,000千円であり、取引は掛によっている。
 - (4) 売上値引を 1,200千円行い、掛代金を減額した。
2. 債権債務等
 - (1) 売掛金 350,000千円を約束手形により回収した。
 - (2) 買掛金 288,000千円の決済のため、約束手形を振り出した。
 - (3) 買掛金30,000千円の決済のため得意先の引受を得て、仕入先指図得意先宛の為替手形を振り出した。
 - (4) 売掛金22,000千円が決済され、代金は他社振出小切手を受け取った。
 - (5) 受取手形 250,000千円が決済され、代金は他社振出小切手を受け取り、直ちに当座に預け入れた。
 - (6) 支払手形 260,000千円を小切手を振り出して決済した。
 - (7) 受取手形20,000千円を銀行で割引き、割引料が差し引かれた手取額は当座に預け入れた。なお、割引料は年 7.3%、割引日×6年3月22日、決済日×6年5月10日である。
 - (8) 前期取得売掛金 1,000千円及び当期取得売掛金 2,800千円が貸し倒れた。
3. 有価証券
 - (1) ×5年5月11日に短期売買目的でA社株式（購入代価80,000千円、購入手数料 800千円）を取得し、当座により決済した。
 - (2) ×5年7月29日にA社株式すべてを82,100千円で売却し、代金は当座に預け入れた。
 - (3) ×5年8月25日に短期売買目的でB社株式（購入代価50,000千円、購入手数料 500千円）を取得し、当座により決済した。

4. 固定資産

- (1) ×5年10月26日に建物の一部（取得原価80,000千円，期首減価償却累計額43,200千円）を 31,650千円で売却し，売却代金を当座に預け入れた。
- (2) ×5年12月3日に備品20,000千円を購入し，代金は掛（決済日×6年4月3日）とした。なお，当該備品は翌営業日より事業の用に供している。

5. 給料

従業員に対する給料68,750千円を現金で支払った。

6. 保険料

×5年11月1日に向こう1年分の保険料 3,000千円を小切手を振り出して支払った。

7. 借入金

【資料Ⅰ】の借入金は×2年7月1日に借り入れたものであり，利払日6月末及び12月末，借入期間5年，年利率4%である。なお，利息の支払は当座により支払われている。

【資料Ⅲ】 決算整理事項

1. 決算時における現金の実際有高は56,800千円であった。なお，現金の実際有高と帳簿残高との差額原因は不明であるため，雑損失又は雑収入として処理する。
2. 期末商品棚卸高は28,500千円である。
3. B社株式の期末時価は53,000千円である。
4. 売上債権期末残高に対して，2%の貸倒引当金を設定している（差額補充法）。
5. 減価償却
 - (1) 建物は定額法（耐用年数30年，残存価額10%）により減価償却を行う。
 - (2) 備品は定額法（耐用年数8年，残存価額10%）により減価償却を行う。
6. 保険料の繰延が ? 千円，支払利息の見越が ? 千円ある。なお，金額は各自推定すること。

【解答】 ★ 4点×25箇所=100点

問 1 (単位：千円)

決算整理前残高試算表

× 6 年 3 月 31 日

現 金	(★ 56,950)	支 払 手 形	(85,000)
当 座 預 金	(★ 408,850)	買 掛 金	(★ 66,550)
受 取 手 形	(115,000)	未 払 金	(★ 20,000)
売 掛 金	(★ 135,000)	貸 倒 引 当 金	(900)
有 価 証 券	(50,500)	借 入 金	(60,000)
繰 越 商 品	(24,000)	建 物 減 価 償 却 累 計 額	(162,000)
建 物	(300,000)	備 品 減 価 償 却 累 計 額	(22,500)
備 品	(60,000)	資 本 金	(800,000)
土 地	(150,000)	繰 越 利 益 剰 余 金	(45,000)
仕 入	(★ 315,050)	売 上	(433,800)
給 料	(68,750)	有 価 証 券 売 却 損 益	(★ 1,300)
保 険 料	(3,000)		
貸 倒 損 失	(★ 2,800)		
建 物 減 価 償 却 費	(★ 1,400)		
支 払 利 息	(★ 1,800)		
手 形 売 却 損	(200)		
建 物 売 却 損	(★ 3,750)		
	(1,697,050)		(1,697,050)

問 2 (単位：千円)

損 益 計 算 書

自×5年4月1日 至×6年3月31日

売 上 原 価	(★ 310,550)	売 上 高	(★ 433,800)
給 料	(68,750)	有 価 証 券 評 価 益	(★ 2,500)
保 險 料	(★ 1,250)	有 価 証 券 売 却 益	(1,300)
貸 倒 損 失	(2,800)		
貸倒引当金繰入額	(★ 4,100)		
建 物 減 価 償 却 費	(10,400)		
備 品 減 価 償 却 費	(★ 5,250)		
支 払 利 息	(2,400)		
手 形 売 却 損	(★ 200)		
雑 損 失	(★ 150)		
建 物 売 却 損	(3,750)		
当 期 純 利 益	(28,000)		
	<u>(437,600)</u>		<u>(437,600)</u>

貸 借 対 照 表

× 6 年 3 月 3 1 日

現 金 及 び 預 金	(★ 465,650)	支 払 手 形	(★ 85,000)
受 取 手 形	(115,000)	買 掛 金	(66,550)
貸 倒 引 当 金	(△ 2,300) (★ 112,700)	未 払 金	(20,000)
売 掛 金	(135,000)	未 払 費 用	(★ 600)
貸 倒 引 当 金	(△ 2,700) (132,300)	借 入 金	(60,000)
有 価 証 券	(53,000)	資 本 金	(800,000)
商 品	(28,500)	繰越利益剰余金	(★ 73,000)
前 払 費 用	(1,750)		
建 物	(300,000)		
減価償却累計額	(△ 171,000) (★ 129,000)		
備 品	(60,000)		
減価償却累計額	(△ 27,750) (32,250)		
土 地	(150,000)		
	<u>(1,105,150)</u>		<u>(1,105,150)</u>

【出題意図】

本問は前期末の繰越試算表から始まり、期中取引を経て最終的には財務諸表を作成するという簿記一巡を問う形式となっています。この簿記一巡の手続は今後学習を進めていく上でも重要ですので、必ず理解するようにして下さい。なお、本問では財務会計論入門 I 講義で扱う重要な論点を中心に出题しています。

【チェック・ポイント】

出題分野	出題論点
現金及び預金	現金過不足
	当座預金
商品売買	売掛金及び買掛金
	値引・返品
手形取引	約束手形
	為替手形
	手形の割引
有価証券	取得及び売却
	決算時の処理
固定資産	取得及び売却
	減価償却
その他の取引	未払金
貸倒れと貸倒引当金	貸倒時の処理
	貸倒引当金
経過勘定	前払費用
	未払費用

【総合問題の解き方】

総合問題を解くにあたり「効率良く点を取る事」及び「ケアレスミスをしないう事」を両立させるため、以下の事項に注意して解くと良い。

1. 問題を解き始める前に、問題文全体と答案用紙を一読する。

(1) スタートとゴールの確認

何が資料で与えられ、何を解答しなければならないのかを把握する。なお、本問では繰越T/B から前T/B 及びP/L・B/S を作成する問題であるので、期中仕訳及び決算整理仕訳を行う必要がある。

(2) 会計期間の確認

受験簿記上、3月決算の問題が多いが、12月決算等の他の決算日で出題されることもある。会計期間を間違えてしまうと減価償却費や経過勘定の月割計算等を間違えることになるので注意が必要である。なお、本問は3月決算である。

(3) 問題文に資料として与えられている試算表に記載されている勘定科目名及び金額の確認

試算表に記載されている勘定科目名及び金額から、再振替仕訳や決算整理仕訳を読み取らせる場合があるので、問題を解き始める前に確認しておく。なお、本問では繰越T/B に「未払利息」があることから、再振替仕訳が必要であると判断することができる。

(4) その他の注意事項

重要な問題文の指示（例えば、利息の計算は日割か月割か？）のチェックや難易度の把握等を行う。

2. 難易度及び出題論点を考慮して、解く順番を決定する。

(1) 易しい論点から解く。

難しい論点は処理に時間がかかるため、そこに時間を費やすと易しい論点に時間が割けず、時間内に終わらなかつたり、思わぬケアレスミスをしてしまう。したがって、得点源である易しい論点を先に解答し、時間を有効に使うことが重要である。

(2) 得意とする論点から解く。

(1) と同様の理由である。

(3) 複数の処理が絡む可能性のある論点は一番最後に解く。

例えば貸倒引当金は未処理考慮後の債権金額に対して設定されるため、期中未処理事項を処理した後で貸倒引当金の要設定額を計算しないと二度手間になってしまう可能性がある。決算整理事項の一番最後に貸倒引当金を解くことにより効率的に問題を解くことができる。

3. 以下の点に注意しながら、実際に処理する。

(1) 下書用紙の活用

問題によっては、T勘定、ボックス図、タイム・テーブルを用いたり、問題文に資料として与えられている繰越T/B や前T/B に書き込む（本問では繰越T/B ）といった工夫をすることにより効率的に解くことができる。

(2) 答案用紙の表示科目

公表用財務諸表の表示科目と、帳簿上の勘定科目名を区別する。

(3) 答案用紙には黒のペンで記入する。

論文式本試験においては、黒の万年筆又はボールペンを使用しなければならず、鉛筆や青のペン等での記入は認められないので注意が必要である。なお、間違えた箇所の修正には修正液や修正テープを使用することができる。また、短答式本試験においてはマークシート方式であるため、黒鉛筆のみ認められる。

(4) 答案用紙は丁寧に書き、答えのみ記入する。

答えに略字を使用したり、答え以外（下書用紙の一部）を記入した場合、本試験においては「特定答案」として採点対象から外される可能性があるため注意が必要である。

【解答への道】 (単位:千円)

I. 再振替仕訳

(借) 未 払 利 息	600	(貸) 支 払 利 息	600
-------------	-----	-------------	-----

II. 期中取引仕訳

1. 商品売買

(借) 仕 入	316,000	(貸) 買 掛 金	316,000
(借) 買 掛 金	950	(貸) 仕 入	950
(借) 売 掛 金	435,000	(貸) 売 上	435,000
(借) 売 上	1,200	(貸) 売 掛 金	1,200

2. 債権債務等

(借) 受 取 手 形	350,000	(貸) 売 掛 金	350,000
(借) 買 掛 金	288,000	(貸) 支 払 手 形	288,000
(借) 買 掛 金	30,000	(貸) 売 掛 金	30,000
(借) 現 金	22,000	(貸) 売 掛 金	22,000
(借) 当 座 預 金	250,000	(貸) 受 取 手 形	250,000
(借) 支 払 手 形	260,000	(貸) 当 座 預 金	260,000
(借) 当 座 預 金	19,800	(貸) 受 取 手 形	20,000
手 形 売 却 損	200(*1)		
(借) 貸 倒 引 当 金	1,000(*2)	(貸) 売 掛 金	3,800
貸 倒 損 失	2,800(*3)		

(*1) $20,000 \times 7.3\% \times \frac{50 \text{日} (\times 6.3/22 \sim \times 6.5/10)}{365 \text{日}} = 200$

(*2) 前期取得売掛金

(*3) 当期取得売掛金

3. 有価証券

(借) 有 価 証 券	80,800(*1)	(貸) 当 座 預 金	80,800
(借) 当 座 預 金	82,100	(貸) 有 価 証 券	80,800(*1)
		有 価 証 券 売 却 損 益	1,300(*2)
(借) 有 価 証 券	50,500(*3)	(貸) 当 座 預 金	50,500

(*1) 購入代価80,000+購入手数料800=取得原価80,800

(*2) 売却価額82,100-80,800(*1)=1,300

(*3) 購入代価50,000+購入手数料500=取得原価50,500

4. 固定資産

(借) 建 物 減 価 償 却 累 計 額	43,200	(貸) 建 物	80,000
建 物 減 価 償 却 費	1,400(*1)		
当 座 預 金	31,650		
建 物 売 却 損	3,750		
(借) 備 品	20,000	(貸) 未 払 金	20,000

(*1) $80,000 \times 0.9 \div 30 \text{年} \times \frac{7 \text{ヶ月} (\times 5.4 \sim \times 5.10)}{12 \text{ヶ月}} = 1,400$

(注) 商品の仕入以外の掛取引は「未払金」勘定で処理する。

5. その他の取引

(借) 給 料	68,750	(貸) 現 金	68,750
(借) 保 険 料	3,000	(貸) 当 座 預 金	3,000
(借) 支 払 利 息	1,200	(貸) 当 座 預 金	1,200(*1)
(借) 支 払 利 息	1,200	(貸) 当 座 預 金	1,200(*2)

(*1) $60,000 \times 4\% \times \frac{6 \text{ヶ月} (\times 5.1 \sim \times 5.6)}{12 \text{ヶ月}} = 6/30 \text{支払分} 1,200$

(*2) $60,000 \times 4\% \times \frac{6 \text{ヶ月} (\times 5.7 \sim \times 5.12)}{12 \text{ヶ月}} = 12/31 \text{支払分} 1,200$

Ⅲ. 決算整理前残高試算表 (問 1 の解答)

現金	56,950	支払手形	85,000
当座預金	408,850	買掛金	66,550
受取手形	115,000	未払金	20,000
売掛金	135,000	貸倒引当金	900
有価証券	50,500	借入金	60,000
繰越商品	24,000	建物減価償却累計額	162,000
建物	300,000	備品減価償却累計額	22,500
備品	60,000	資本金	800,000
土地	150,000	繰越利益剰余金	45,000
仕入	315,050	売上	433,800
給料	68,750	有価証券売却損益	1,300
保険料	3,000		
貸倒損失	2,800		
建物減価償却費	1,400		
支払利息	1,800		
手形売却損	200		
建物売却損	3,750		
1,697,050		1,697,050	

Ⅳ. 決算整理仕訳

1. 現金過不足

(借) 雑損失	150(*1)	(貸) 現金	150
---------	---------	--------	-----

(*1) 前T/B 現金56,950 - 実際有高56,800 = 150

2. 売上原価の算定

(借) 仕入	24,000	(貸) 繰越商品	24,000
(借) 繰越商品	28,500	(貸) 仕入	28,500

3. 有価証券の期末評価

(借) 有価証券	2,500	(貸) 有価証券評価損益	2,500(*1)
----------	-------	--------------	-----------

(*1) B社株式(期末時価53,000 - 取得原価50,500) = 2,500

4. 貸倒引当金 (差額補充法)

(借) 貸倒引当金繰入額	4,100(*1)	(貸) 貸倒引当金	4,100
--------------	-----------	-----------	-------

(*1) 前T/B(受取手形115,000 + 売掛金135,000) × 2% - 前T/B 貸倒引当金900 = 4,100

5. 減価償却

(借) 建物減価償却費	9,000(*1)	(貸) 建物減価償却累計額	9,000
(借) 備品減価償却費	5,250(*2)	(貸) 備品減価償却累計額	5,250

(*1) 前T/B 建物300,000 × 0.9 ÷ 30年 = 9,000

(*2) 過年度取得分4,500(*3) + 当期取得分750(*4) = 5,250

(*3) 40,000 × 0.9 ÷ 8年 = 4,500

(*4) $20,000 \times 0.9 \div 8年 \times \frac{4ヶ月(\times 5.12 \sim \times 6.3)}{12ヶ月} = 750$

6. 損益の見越・繰延 (経過勘定)

(借) 前払保険料	1,750(*1)	(貸) 保険料	1,750
(借) 支払利息	600	(貸) 未払利息	600(*2)

(*1) $3,000 \times \frac{7 \text{ヶ月} (\times 6.4 \sim \times 6.10)}{12 \text{ヶ月}} = 1,750$

(*2) $60,000 \times 4\% \times \frac{3 \text{ヶ月} (\times 6.1 \sim \times 6.3)}{12 \text{ヶ月}} = 600$

V. 決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表

× 6 年 3 月 31 日

現金	56,800(*1)	支払手形	85,000
当座預金	408,850(*1)	買掛金	66,550
受取手形	115,000	未払金	20,000
売掛金	135,000	未払利息	600(*4)
有価証券	53,000	貸倒引当金	5,000
繰越商品	28,500(*2)	借入金	60,000
前払保険料	1,750(*3)	建物減価償却累計額	171,000
建物	300,000	備品減価償却累計額	27,750
備品	60,000	資本金	800,000
土地	150,000	繰越利益剰余金	45,000
仕入	310,550(*5)	売上	433,800(*6)
給料	68,750	有価証券評価損益	2,500(*7)
保険料	1,250	有価証券売却損益	1,300(*8)
貸倒損失	2,800		
貸倒引当金繰入額	4,100		
建物減価償却費	10,400		
備品減価償却費	5,250		
支払利息	2,400		
手形売却損	200		
雑損失	150		
建物売却損	3,750		
	<u>1,718,500</u>		<u>1,718,500</u>

(*1) B/S 現金及び預金 : 現金56,800 + 当座預金408,850 = 465,650

(*2) B/S 商品

(*3) B/S 前払費用

(*4) B/S 未払費用

(*5) P/L 売上原価

(*6) P/L 売上高

(*7) P/L 有価証券評価益

(*8) P/L 有価証券売却益

(注) B/S 繰越利益剰余金 : 後T/B 繰越利益剰余金45,000 + P/L 当期純利益28,000 = 73,000